

団塊世代の大量退職が注目を集めた「2007年問題」、その活力と有能な人材をいかに地域で活かすかは、市民活動でも大きな課題でした。女性の場合は主婦として母親として地域と関わる機会を持つ方も多いですが、ほとんど家に帰るだけだった男性たちが、我が家のある地域での生活にすぐに馴染めるとは限りません。でも、ちょっとアンテナを立ててみると地域デビューのキッカケはいくつかあります。そのヒントになればと、今号では「シルバー大学」「男の料理教室」「お父さんお帰りなさいパーティー」をご紹介します。

◆シルバー大学は小平市中央公民館の看板事業で、半年ごとに開催していた時期もありましたが、平成25年度(44期)から通年化とともに2年制になりました(現在の1年生が45期生、2年生が44期生)。講座内容も参加体験型のプログラムとなり、「教養講座や健康講座は他でも聞ける。学んだことを活かしたい」という受講者からの要望もあり、知識の習得で終わらず、それを地域でどう活かすかまで含めたプログラムで、“学びの循環をつくる”ことが目的です。“循環”のひとつは、地域活動の体験とインタビューを通して様々な地域課題を体感し、それらを解決するために自分たちにできることをイベントとして企画運営して社会還元すること、ふたつめは2年生が1年生に学びの支援をすることです。5月～翌年3月の間に1年生2年生ともに40回前後という長丁場の講座ですが、講座の中で表現あそびやコミュニケーションを学んだり、親睦ツアーもあったりして、「年齢の近いたくさんの人と出会い、メリハリのある内容で楽しかった」「新しい見方を発見、人生後半が面白い」などの感想が寄せられています。ここから「むかし遊び応援団」や「学習支援隊」「おじさま支隊」などが生まれ、各地で活動しているそうです。OB会を結成している期もあれば、19期から44期までの縦のつながり「シルバー大学連絡会」も始まり、人脈がどんどん広がる仕組みがあるようです。

◆男の料理教室 6～7月にかけて行われた2つの料理教室の様子をそれぞれの館長さんにお聞きしました。津田公民館の『男飯～基本から学ぶ簡単料理～』は、働いている人も参加できるようにと土曜の夜6回の講座で、電子レンジやオーブントースターを使って手軽に本格的な料理を作れるプログラムを組みました。参加者15名の多くが料理初心者でしたが、自発的に参加しただけあって欠席はほとんどなく、グループのメンバーを途中でシャッフルしたりしてさらに親睦も深めたようです。残念ながら終了後のサークル化には至らず、小山館長が他の館で活動しているサークルを紹介したそうです。また、大沼公民館の『はじめて学ぶ男の料理』は、高齢者学級として水曜日の午前中5回の講座で、ご飯の炊き方から包丁使い、蒸す・炒める・揚げるなどの基本の調理法という“基本のキ”を学ぶものでしたが、大沼公民館初の料理教室ということも

あってか、定員の1.5倍の応募があり抽選になったとのこと。講座終了後6名が「自分たちで復習したい」とサークルをつくったと笹川館長は話していました。

一方、小川西町公民館の料理教室から生まれたサークル「ダンディクッキング」はすでに8年のキャリアがあります。代表の松永氏によると、ご本人はいずれ一人になった時に困らないようにと2006年に受講。4回のプログラム終了後、館長からの声かけでサークル化し、現在は16名で毎月1回料理研究家の先生の指導の下で活動しているそうです。メンバーの入れ替わりも多少あるものの、長く続けてこられたコツは“協力しあってやること”だそうです。今年秋には、島田館長の声かけで障害者福祉センターまつりでやきそば屋台を開店、個人の域から一歩踏み出した活動も始まったようでした。館長によると、リタイア世代向けの仲間づくりを目的に、今年度は野菜作りの講座も企画、5月から8月上旬にかけての10回講座に定員を上回る応募があったそうです。班ごとに作業をして一緒に汗をかき、収穫の喜びを共にすることがその後の仲間づくりに繋がっているようでした。

◆お父さんお帰りなさいパーティーは、リタイアした方々の地域デビューのきっかけづくりを目的に各地で行われていますが、小平市では小平市社会福祉協議会が平成13年に始めました。その時参加したメンバーが「同じような方々のお手伝いのできれば」と、地域デビュー支援サークル「とまり木」を結成、現在では年1回のそのパーティーの他に、フォローアップとして「とまり木仲間づくりパーティー」も主催しています。現在「とまり木」の会員は45名、毎月定例で集まり、見学会や研修会、会員の交流などを行っていて、中には各種福祉施設でのボランティア活動を行っている会員もいます。他にも、広く中高齢者のために市内のサークル紹介の資料を提供したりサークルの交流会なども企画したり、また「とまり木」の会員から新しいサークルを見つけて巣立って行くのも自由と、まさに名前の通り地域デビューのための“とまり木”の役割も果たしていると、代表の西村さんは話していました。



12月3日(水)に行われた“あすぴあ”交流サロン「シニア世代の 趣味をいかした仲間づくり」では、そろばんやパソコン、和風やNゲージレイアウトなど、最初は個人の好きなことがきっかけで仲間が集い、それが社会に貢献する活動に発展している人たちのお話を聞くことができました。

さあ、あなたも地域で力を発揮してみませんか！ (文責：田原)